

(資料) 「サブテーマ」と“ツボ”の要約版

ボランティアが生きる“ツボ”とは！

『サブテーマ』は、「ふくおか文化ボランティアフォーラム2014」当日の参加者自らが考えたものが11項目上がりましたが、討論されたのは次の9項目です。

『サブテーマ』

- A ボランティアと行政に溝はあるのか？あるとしたら埋められるか？
- B 世代交代や世代間のコミュニケーションはどうすればよいか？
- C 誰がボランティア活動を担い続けていくのか？
- D ボランティア同士のコミュニケーションを深めるには？
- E 私は役に立っているのか？私はここにいていいのか？
- F ボランティアを楽しむとは、どういうことか？
- G マンネリに陥らないために、何をしたらいいのか？
- H 資質を高めるにはどうしたらいいのか？
- I 定年はあるのか？交通費や対価は受けているのか？実情はどうなっているのか？

参加者は、自分で最も興味あるA-Iのサブテーマを掲げたテーブル（一つのテーブルに6～8人）に着き、いろんな立場と視点で、とことん喋りました。その結果、見えたツボは

A：ボランティアと行政の溝はあるのか？あるとしたら埋められるか？

- ツボ** ・財源の確保と熱心な活動を長年続けることで、溝は埋まる。
・行政の担当者に希望を見出す。

B：世代交代や世代間のコミュニケーションはどうすればよいか？

- ツボ** ・広い視野と他所者の力（目線）を活用する。・地元の人には見えにくいところも、他所者には見えることが多々ある。

C：誰がボランティア活動を担い続けていくのか？

- ツボ** ・「担えるだけ担う」という認識。いつでも辞められる覚悟を持つことが、大切。

D：ボランティア同士のコミュニケーションを深めるには？

- ツボ** ・誰でも発言機会があることの気づき。
・若い人が加わると話題に化学変化が起きる。

E：私は役に立っているのか？私はここにいていいのか？

- ツボ** ・「いて、いいんです。でも、頑張りすぎないでね」
・ボランティアとは、出来る人が、出来る時、出来ることをする。

F: ボランティアを楽しむとは、どういうことか？

- ツボ
- ・好奇心、興味を持つ。
 - ・自分を高める喜び、相手が喜ぶことの喜びを知る。

G: マンネリに陥らないために、何をしたらいいのか？

- ツボ
- ・新しい提案とその具現化。
 - ・ボランティアの任期を決め、メンバーの交替も視野に入れる。

H: 資質を高めるには、どうしたらいいのか？

- ツボ
- ・相手の感動を自分の感動とする。
 - ・自己研鑽する。
 - ・モチベーションを高める努力をする。・・・この3つの繰り返し。

I: 定年はあるのか？交通費や対価は受けているのか？実情はどうなっているのか？

- ツボ
- ・年を重ねることで知識・経験が深まり、定年はない。
 - ・対価の形はお金だけではない。

・・・ ～～～ …… ～～～ ……

※ この他に、今回のフォーラムでは討論の対象とならなかったものの、ボランティア活動に伴う問題や課題として

①: 活動資金（財源）を確保することが難しい。

○財源として考えられるのが

- ・会員からの年会費、
- ・行政や主催者等からの補助／助成金、
- ・寄付金
- ・ボランティア活動からの報酬、
- ・イベント等の企画／実施による資金の捻出、など

○出来るだけ経費をかけない活動をしている団体も多い。

②: リーダー格となる指導者がなかなか育たない。

○「世代交代の難しさ」に通ずる課題で、ボランティアコーディネーターの育成が急がれる。

※ 行政／主催者側からの問題提起として

③: ボランティア側に、自主的・意欲的に技術や資質の向上を目指そうとする姿勢が乏しい。

○ボランティア活動を活性化させたいが、担当はどう指導すればよいか悩む。

④: 予算と人員が減少する中で、担当の負担軽減にボランティアの組織化を望む。

※ その他の事項として

⑤: 文化ボランティアの社会的認知度が、災害・福祉ボランティアに比べて低い。

○PR 不足から、ボランティア活動の内容が地域住民に十分理解されてない。